西多摩医師会報

創刊　昭和47年７月　　第260号　平成６年８月

『西多摩の風物』　福生七夕祭　　鹿野純一

目　次

頁

1．特集　在宅医療に向かって①
　在宅医療とＭＲＳＡ感染
　小机敏昭 … 2
2．理事会報告　広報部 … 7
3．会員通知・医師会の動き　事務局 … 9
4．各部だより
　健診出務時の源泉徴収について
　経理部 … 11
　学術インフォメーション　学術部 … 12
　学校医通信　道又正達 … 16
5．文芸随筆諸事百般
　『みちのくひとり旅』　近藤　肇 … 24
6．グルメ探訪　玉木一弘 … 31
7．地区だより
　福生地区
　福生市三師会総会　広報部 … 31
8．お知らせ …… 32
9．表紙のことば　鹿野純一 … 33
10．あとがき　石井好明 … 33

特集

在宅医療に向かって①

迫り来る在宅医療の時代を様々な視点からイメージして行きます

在宅医療とMRSA感染ー文献的考察

西多摩医師会学術部　小机敏昭

はじめに

松原貞一会長より学術部に「在宅ケアとMRSAについて」情報を集めてほしい、との依頼がありましたので文献的考察として報告致します。

MRSA感染は、従来一般に在宅では問題がないと言われてきました。最近、国のゴールドプラン（高齢者保健福祉推進10ヶ年計画）に沿って、各種福祉事業が行われるようになり、老人医療は在宅医療・地域ケアに向かって確実に進んでいます。このような流れの中で、院内感染によるMRSA感染既往者もしくは保菌者が退院して在宅医療を受けるCaseや、在宅中心静脈栄養・経管栄養・気管切開・膀胱内留置カテーテルなどが必要なCaseが増加しつつあります。また、MRSA保菌者ということで各種福祉サービス・施設への入所を制限される場合もみられ、大きな社会問題になりつつあります。我々開業医にとっても今後避けて通れない関心事でしょう。最も大事なことは患者家族、医療・福祉関係者に対して正しい知識を教育すること、すなわち、感染予防対策を中心とする介護者教育をきちんと行うことでしょう。

以下に最近の知見をまとめてみました。

MRSAの発生

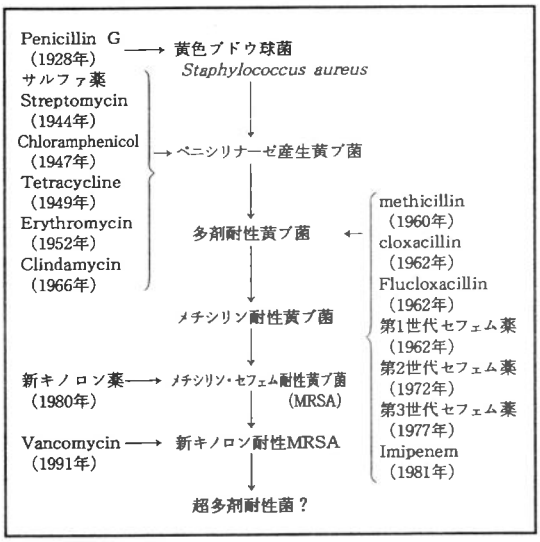
MRSAはご存知のようにMethicillin－resistant S. aureus（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）の略語です。院内感染として問題にされてきました。

我国でMRSAが問題になってきたのは第2、第3世代セフェム剤が使用され始めた1980年以後であります。MRSAの分離率をみると病院間での格差が大きく、総合病院では外来患者より入院患者から多く分離され、外科系の診療科において分離頻度が高い傾向がみられます。[1)]

最近のMRSAの多くは多剤耐性菌で、超高度耐性となったため菌の発育速度は弱まり毒力も低下、β－ラクタマーゼ産生能も低下、すなわちMRSAの体力が低下したため、菌はいるが常在菌もしくは日和見感染菌としての性格を呈するようになり、厳しい感染症は減少、恐さは少なくなってきています。[2)] しかし、その分MRSAのエコロジーは大きく、院外へも拡大していることが示唆されています。同時に、新キノロン剤耐性黄色ブ菌が院内のみならず院外患者からも分離される率が年々増加しており、抗菌薬の使用量増加が耐性菌を招来して行くことも予想されています。[3)] 我々開業医においてもこの点十分な注意が必要で、超多剤耐性黄色ブ菌を作らない賢明さと慎重さが強く求められています。

黄色ブドウ球菌の耐性化の歴史を図に示します。[3)]

黄色ブドウ球菌の耐性化の歴史[3)]



MRSA感染リスク

MRSA感染リスクの高い患者として、

1．免疫不全や白血球減少のある患者
2．褥創・開放性創傷・熱傷をもつ患者
3．中心静脈カテーテルや末梢静脈カテーテル挿入患者
4．気管切開患者・気管内挿管患者
5．尿路留置カテーテル挿入患者
6．外科的ドレーン挿入患者
7．経鼻胃管挿入患者

などが挙げられます。[4)]

また、MRSA感染の要因として、

1．入院期間が長いこと
2．β－ラクタム系薬剤が投与されていること
3．感染患者・保菌者との直接的・間接的接触があること
4．悪性腫瘍など基礎疾患があり、局所的・全身的免疫不全の易感染患者であること

などが挙げられます。[1)]

在宅医療においては以上の条件・状態で帰宅した症例には特に注意が必要でしょう。

MRSA感染源

MRSAは、院内の乾燥した場所においても長期間の生存が可能であり、空気を介した院内感染を起こしやすい性質をもっています。[5)]

MRSAの感染源は、①MRSA感染患者・保菌者、②医療従事者、③院内環境、と言えます。[1)] いいかえますと最大の感染源は、患者より環境、とりわけ床（とこ）と言えます。床・ベッドを特にきちんと掃除・消毒することが重要です。[2)] これは在宅ケアの面でも重要なことです。すわなち、医療従事者・患者・介護者（家族）の全てにMRSA感染予防の正しい知識が求められるわけです。

MRSAの治療に関する最近の知見

表在性感染ばかりでなく深部感染においても、MRSAがみつかったからといって、すぐにバンコマイシンを使用すると失敗することが多く、先ず状況に合わせて消毒薬で局部をきちんと清拭すれば良い、との報告がみられます。[2)] また、バンコマイシンはMRSA感染の臨床症状の改善に有効であるが、MRSA除菌にはあまり有効でない、[6)] とも言われ、どの程度まで熱心に保菌者を治療すべきかもわかっていないのが現状のようであります。

予防対策

MRSA感染予防対策は、基本的衛生事項の遵守といえます。

1．適切な手洗いあるいは手指消毒の励行
2．感染患者の早期発見と隔離
3．必要な情報の伝達と対応
4．保菌者のスクリーニングと処置
5．機器・器材・器具に対する適切な対策
6．汚染環境対策
7．抗生物質の適正使用
8．教育による正しい知識と理解の普及・啓蒙
9．患者および家族への説明

などが予防対策として挙げられます。[1),7)] また、その他として

1．床・ベッド・床頭台など患者周辺の消毒
2．医療器具等の適正な操作の訓練
3．薬液マットの使用
4．ゴミ処理方法の確立

なども挙げられます。往診の場合常に消毒剤を持ち歩き、現場で必ず手を消毒し、水洗いすべきでしょう。[2)]

参考資料として、目的別消毒薬選択のめやすを表に示します。[8)]

目的別消毒薬選択のめやす[8)]

		一般名	一般細菌	MRSA・緑膿菌	結核菌	B・C型肝炎ウイルス	ヒト免疫不全ウイルス	販売名
皮膚面	日常手洗い	第四級アンモニウム塩	◎	○	×	×	△	オスバン、ハイアミン
		クロルヘキシジン	◎	○	×	×	△	ヒビテン、ヒビスクラブ マスキン
		ポビドンヨード	◎	◎	◎	△	◎	手術用イソジン液
	手指消毒	消毒用アルコール	◎	◎	◎	○～△	◎	消毒用エタノール イソプロピルアルコール(70%)
		エタノール含有 （第四級アンモニウム塩 クロルヘキシジン ポビドンヨード）	◎	◎	◎	○～△	◎	ウエルパス
			◎	◎	◎	○～△	◎	ヒビスコールS
			◎	◎	◎	○～△	◎	イソジンパーム
		次亜塩素酸ナトリウム	◎	◎	◎	◎	◎	ミルトン、ピューラックス
粘膜・創傷面		ポビドンヨード	◎	◎	◎	×	◎	イソジン液 イソジンゲル、ガーグル
		クロルヘキシジン	◎	○	×	×	×	ヒビテン、ヒビスクラブ マスキン
		両性界面活性剤	◎	○	◎	×	×	テゴー51、ハイパール
		過酸化水素水	○	△	×	×	×	オキシドール、オキシフル
		次亜塩素酸ナトリウム	◎	◎	◎	◎	◎	ミルトン
機械器具		クロルヘキシジン	◎	○	×	×	×	ヒビテン、ヒビスクラブ マスキン
		両性界面活性剤	◎	○	◎	×	×	テゴー51
		消毒用アルコール	◎	◎	◎	○～△	◎	消毒用エタノール イソプロピルアルコール(70%)
		グルタラール	◎	◎	◎	◎	◎	サイデックス、ステリハイド
居室		第四級アンモニウム塩	◎	○	×	×	×	オスバン、ハイアミン
		両性界面活性剤	◎	○	◎	×	×	テゴー51、ハイパール
		消毒用アルコール	◎	◎	◎	○～△	◎	
リネン		通常は洗濯、乾燥で充分。乾燥機使用すれば最良。						
		第四級アンモニウム塩	◎	○	×	×	×	
		次亜塩素酸ナトリウム	◎	◎	◎	◎	◎	

◎有効　○おおむね有効　△効果劣る　×無効

注意:「消毒の要点」

1) 手指、粘膜、器械の消毒では、流水で病原体や付着している有機物を、ともかく洗い流して希釈するのが第一であり、その上で消毒薬の使用を考えます。
2) 消毒薬の選択では、消毒対象を傷めないことが重要であり、いたずらに強力な消毒薬を乱用しないよう注意が必要です。
3) 消毒薬の濃度や使用方法については、添付説明書を熟読し、目的に合わせた消毒を行うことが必要です。
4) 同じ消毒薬を長く使用し続けると特定の耐性株が定着することがあります。生体消毒には複数の消毒薬を同時に配置したり、環境の消毒には1ヵ月に一度使用消毒薬を変更します。

在宅医療とMRSA感染の現状

現在の所、MRSAを在宅医療の面からとらえた報告は数少ないようです。

在宅医療におけるMRSA感染は病院内と異なり一般に問題がないとされているが、医療依存度の高い患者にとっては問題となる例が少なくない、という報告もあります。[9] 在宅医療に積極的な佐久総合病院のデーターをみてみます。[10]

延べ在宅登録患者337例のうちMRSA感染既往者は26例、これらの症例を対象に調査を行った所、

1．一度MRSA保菌者になると、恒久的な菌陰性化は在宅療養患者では一般に困難である。

2．特に全介助もしくはそれに近い患者、胃管・気管カニューレなどがついている人にその傾向が強い。

3．ほとんどの患者が無症状で経過し、MRSAによる重篤な感染症の発症率は極めて低いものと推測される。

以上のことから、検査時陰性であっても感染既往者はMRSA陽性者と同様に扱っていくこと、MRSA陽性であっても保菌状態ならば患者および家族に良く説明し、状況が許す限り除菌はせず、医療の監視下でMRSAの自然歴をみて行く、との結論です。

また、同時に行われた介護者・保健福祉従事者に対する調査結果は以下の通りです。

1．患者に濃厚に接触する家庭内介護者間での保菌率は、我々が予想したよりも低かった。

2．地域の保健・福祉従事者に保菌者が皆無であった。

以上より、MRSAの一般介護レベルでの伝播力はそれほど強くないことを裏づけているものと考えられ、一般的な感染予防対策をしていれば保健・福祉従事者が保菌者となる可能性は非常に稀なことであると推測された、とのことです。

また、佐久総合病院の関連施設の報告があります。[11]

在宅療養患者70例のうちMRSA保菌者は8例（11%）、このうち全介助4例、ほぼ全介助1例、一部介助2例、自立1例、またその背景をみると脳血管障害6例、気管カニューレ・胃管・膀胱カテーテル留置5例、褥創1例であった。ねたきり状態、複雑な医学的管理を強いられている症例で発生率が高い結果が得られています。

保菌したまま帰宅した後の家庭内伝播予防には、患者・家族・医療福祉関係者に対しての事後の適切な指導が重要なポイントとなります。

在宅医療とMRSA感染防止対策

河野は在宅医療における感染防止対策は介護者教育、[9] と述べています。その中で、

1．細菌検査を定期的に行う（痰・咽頭・尿・創培養）

2．往診・訪問看護の際の手洗いの徹底、ペーパータオルの使用、ガウンテクニック、血圧計・聴診器の貸し出し、処置終了時の0.5%ヒビテンアルコールの噴霧

3．汚染物は持ち帰らないことを徹底、可燃物は焼却、注射器やアンプルなどの不燃物は空カンに入れ後日回収

4．寝衣の消毒は0.2%トリゾン液に30分浸水後洗浄

5．ベッド・床上を0.5%ヒビテンアルコールで噴霧

を感染防止対策としています。また、介護者等の細菌検査の結果で細菌コロニー数の減少は、MRSAの場合液体ミューズ（トリクロカルバン・トリクロサン）で消失、緑膿菌の場合液体ミューズでは不充分で、さらに0.5%ヒビテンアルコールによる消毒をすればほぼ消失する、と述べています。

寺岡はMRSA保菌者への対応策を以下のように述べています。[12]

1．患者・家族へはMRSA感染の事実を明らかにしない

2．そのかわり介護者には処置後の手洗い励行を指導する

3．訪問者は処置時手袋を着用する

4．訪問毎に0.1%ベンザルコニウムアルコールで手を拭く

5．訪問は一番最後にする

以上が現在言われている対応策です。

MRSA 感染の有無にかかわらず、医療依存度の高い症例ほど一作業一消毒の概念を徹底する必要があります。手洗い励行を付添人に教育すること、汚物処理・下着の取りかえ等をする人に正しい教育をすること、付添人自身の着衣の正しい消毒法の教育など、日常生活上の衛生観念をうえつけることが重要であります。[2)]

在宅において MRSA を保菌していることを問題であるとし、公的福祉サービスが打ち切られたり制限されたりする傾向もみられます。[9).11)] 最も深刻なのは施設入所問題で、公営老人ホームですら受け入れ拒否はしないものの、入所申請時の診断書に MRSA のチェック欄を設け、陽性患者は菌の消去を、と言ってくるケースもみられる、この様なケースが増えれば老人は行き場を失い、家庭介護者の重荷は増すばかりであろう、[11)] と様々な今後の問題点が指摘されています。しかし、一般常識的な感染防止対策を実行すれば公的福祉サービスには全く問題がない、と思われます。

在宅医療と病診連携

病診連携において院内感染が問題となる場合について相川がまとめています。[13)] すなわち問題点は、

1．感染症以外の傷病で大病院に紹介されて入院した患者が院内感染を合併した場合

2．感染症、特に院内感染の原因となりやすい MRSA ・緑膿菌などによる感染症患者を病院に紹介して入院させる場合

3．軽快した入院患者を病院から診療所に逆紹介する場合に、炎症症状はなくても痰や膿などに耐性菌が認められるためにその扱いが困る場合

であります。この際、紹介－逆紹介時の詳細な情報交換が最も重要で、患者の基礎疾患、病態の経過、化学療法の詳細を含めた治療内容、血液検査・細菌検査の結果などの情報提供が病診の間でスムースに行われる必要がある、と述べています。

まとめ

以上、在宅医療と MRSA 感染につき現状を文献的考察として述べました。

最後に東京都衛生局はそのマニュアル[14)]の中で、MRSA 保菌者の介護に関し、「関係者間で密接な情報連絡をとり、きめ細かい対応が必要、医師会・医療機関・福祉施設・市町村担当者・保健所等介護対象者を取りまく様々な関係者間で、地域での感染予防対策に取り組むことが重要」と言っています。

地域全体で感染防止に対する意識をレベルアップし、適切な対応・マニュアル作りなどをして行く必要があると考えられます。

参考文献

1）清水喜八郎監修：MRSA 感染症の現状と対策。最新医学社、大阪、1992

2）特集 MRSA 感染、開業医の対応ポイント－問われる日常の衛生観念。ドクターフォーラム18(11)：9－14、1993

3）嶋田甚五郎：MRSA の将来。医薬ジャーナル27(12)：75－79、1991

4）山本貴雄、岡田弘二：産婦人科系感染症。CLINICIAN 40(419)：21－25、1993

5）品川長夫：MRSA 感染、特に予防と治療。ラジオたんば医学情報部№2991、1993.5.23 放送より

6）島田馨：MRSA 保菌者の治療。医薬ジャーナル27(12)：71－72、1991

7）小林寛伊：MRSA 感染の臨床における対策と問題点。CLINICIAN 40(419)：38－42、1993

8）厚生省老人保健福祉局老人福祉計画課監修：特別養護老人ホーム等における感染症対策の手引。全国社会福祉協議会、東京、1994

9）河野由起子、宮川高一：在宅患者の MRSA 感染対策。

10）坂井信子：訪問看護と MRSA 感染予防対策－患者・家族・在宅ケア従事者を調査して。EXPERT NURSE 9(10)：48－53、1993

11）寺岡史人、清水茂文、井益雄、関茂樹：在宅ケアレベルにおける MRSA 感染の課題。日本病院会雑誌1993年3月：105－110、1993

12）寺岡史人：在宅医療と MRSA 。JIM 2(8)：714－716、1992

13）相川直樹：感染症患者に対する病診連携。CLINICIAN 40(419)：83－88、1993

14）東京都衛生局総務部地域保健課編：MRSA 在宅感染予防マニュアル。東京都情報連絡室、東京、1993

理事会報告 ★ Information

7月定例理事会　平成6年7月7日　西多摩医師会館

【1】 報告事項

（I）東京都医師会第216回（定時）代議員会及び
東京都医師会第95回（定時）総会報告　（松原会長）

第216回（定時）代議員会結果報告

1 選　挙

当選	東京都医師会	理事（補欠）	高橋寛男
当選	東京都医師会	監事（補欠）	唐澤祥人
当選	東京都医師会	医道審議委員（補欠）	黒河内治郎
当選	日本医師会	代議員（補欠）	中村尚道
当選	日本医師会	予備代議員（補欠）	菊岡豊二

1 報　告　庶務及び事業の概況
（報告どおり承認）

1 議　事

第1号議案　平成5年度東京都医師会一般会計収入支出決算に関する件
（原案どおり承認）

第2号議案　平成5年度東京都医師会特別会計収入支出決算に関する件
（原案どおり承認）

第3号議案　平成6年度医学技術振興事業補助金に関する件

第4号議案　平成6年度国保講習事務委託費に関する件
（第3号議案、第4号議案一括上程いずれも原案どおり可決）

第95回（定時）総会結果

1 報　告　代議員会議決事項
（報告どおり承認）

1 議　事

第1号議案　平成5年度東京都医師会事業報告・決算に関する件
（報告どおり承認）

（II）各部報告　（担当部長）

（学術部）　10月8日羽村コミセンにて一般向け講演会を予定。

（地域医療部）　7月28日に第一回委員会を予定。

（会報部）　会員向けアンケートを実施予定。

（Ⅲ）各地区会よりの報告　（各地区理事）

（福生）　6月23日に総会。福生病院の件について検討した。

（羽村）　7月23日懇親会を予定。

（青梅）　6月24日に総会を行った。7月29日学術、懇親会を予定。

【2】　報告承認事項

（Ⅰ）入会会員について　―― 承認 ――　（真鍋理事）

【3】　協議事項

―― フリートーキング ――

1．「納涼の夕べ」の件

2．会員への情報伝達の件

3．乳児健康診断に伴う講習会開催の件

6，9ヶ月検診の問診内容の変更もあり、会員向け講習会を企画する。

4．その他

7月移動理事会　平成6年7月19日　立川「紀ノ川」

【1】　報告事項

（Ⅰ）都医地区医師会長協議会報告（7月15日）　（松原会長）

1．都医からの伝達事項

(1)　第216回（定時）代議員会結果報告について

(2)　平成6年度全国医師会勤務医部会連絡協議会について

平成6年10月15日（土）に主催：日本医師会、担当：北海道医師会で、テーマ：激動する医療の中で――勤務医の意識改革、で行われる。

(3)　乳児健康審査講演会について

(4)　東京都民間医療機関厚生施設整備資金貸付事業の実施について

看護婦宿舎、保育室の設置にあたり保証金の貸付を行う。

(5)　日本医師会年金の推進運動について

新規受給者が新規加入者を上まわっているのが現状。新規加入者勧誘（新入会員）をすすめてゆく。朝日生命、三菱信託銀行が取扱い先となる。

（II）各部報告 （担当部長）

（広報部） 7月19日、都医にて広報担当理事連絡会あり、都医広報活動について紹介、報告あり。

（保険部） 新規入会者の保険指導、講習会を行う。

（病院担当理事連絡会） 食事自己負担導入、付き添い婦の廃止問題について検討す。

（III）各地区会よりの報告 （各地区理事）

（青梅） 7月29日に医療経営についての講習会を行う。

（福生） 7月12日に福生病院の件につき話し合いを行った。紹介型病院への移行推進、運営協議会の設置等の意見が出た。

（羽村） 7月16日 羽村学校保健会発足式を行った。

（秋川） 前監事の提言につき話し合った。
再審査請求についてもっと医師会の Back up がほしい旨要望があった。

【2】 報告承認事項

（I）入会会員について ―― 承認 ―― （真鍋理事）

（II）新規会員年会費査定について ―― 承認 ―― （高水理事）

【3】 協議事項

（I）予防接種体制について （担当理事）

「新しい予防接種法における西多摩地区の接種体制について」公衆衛生委に諮問する予定。

会員通知

○学術講演会
○7月のレセプト提出日について
○学術講演会
○平成6年度第1回日本医師会「認定産業医」の申請について
○健康診断を実施した場合における源泉徴収所得税の取扱いについて
○地方公務員等共済組合員証等の更新について
○医薬品再評価の終了した医薬品の取り扱いについて
○日本医事新報記事について
○平成6年度第1回成人病検診従事者講習会（大腸がん）の実施について
○平成6年度日本医科大学医師会主催「日本医師会生涯教育講座」第2回の開催について
○都医学校医会平成6年度第1回学術講演会の開催について

各部だより

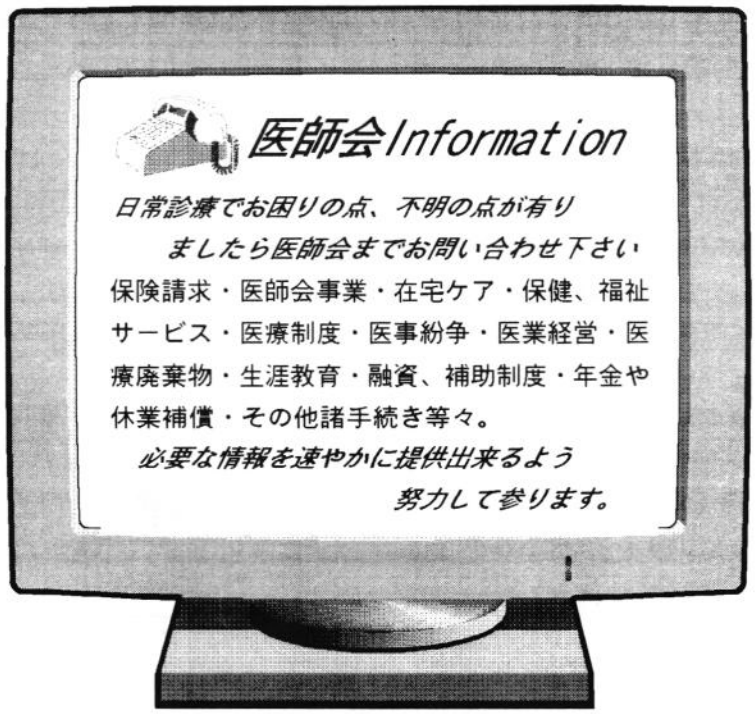
経理部

健診出務時の源泉徴収について

先日松原会長より電話がありました。その内容は、都立高校の健診を臨時に手伝った医師より以前の手伝った時の源泉徴収された税額よりも高い源泉税が徴収されたが、いつから税額が変ったのか、ということでした。直ちに東京都及び東京都医師会に連絡してみました。

結論から申し上げますと、本年初めに国税局の指導で、東京都は４月１日より、都立高校や都立養護施設などの健診にあたった臨時健診医報酬の源泉徴収税額は、月額乙表ではなく日額乙表を使用して計算することになった、との事でした。例えば報酬が１日30,000円とすると、以前は2,100円の税額でしたが、４月１日より11,621円の税額となったわけです。ただ今回の変更を東京都医師会が西多摩医師会に連絡をしていなかった為に、会員の疑問にすぐにお答えできませんでしたが、何か不明な点があれば、西多摩医師会の事務局に連絡していただければ、担当者が調査して、速やかにご返事いたします。

（高水）



学術部 Infomation

8月は夏休みのため学術講演会はありません。

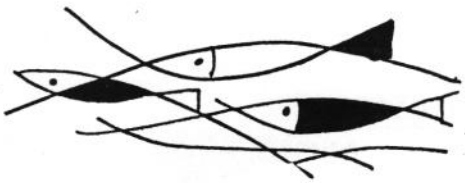
（ちょっと一言）今後の学術講演会についても出欠の往復葉書はお送り致しますが、欠席で返事を出した場合でも当日都合がつき、出席できるようでしたら遠慮なく是非出席して下さい。

西多摩医師会主催「市民健康講座」のお知らせ

テーマ：「子どものアレルギー」
講　師：国立小児病院研究部アレルギー科部長　飯 倉 洋 治 先生
日　時：平成6年10月8日(土)　午後2時～4時
場　所：羽村コミュニティーセンター　3階ホール
（羽村市役所隣り　羽村市緑ヶ丘5－2－6（TEL 0425－54－8584））

以上の要領で市民健康講座を開催致します。多数の先生方の御出席賜りますようお願い申し上げます。また、日頃、気管支喘息・アレルギー性鼻炎・食物アレルギー・アトピー性皮膚炎・蕁麻疹など子どものアレルギーでお悩みの一般市民の皆様への御案内、保健婦さん・看護婦さん・薬剤師さん・栄養士さん等医療従事者への御案内、何卒宜しくお願い申し上げます。

また、当日質問カードを用意し、飯倉先生に御回答頂けることになっております。事前にわかりましたら西多摩医師会学術部（TEL 0428－23－2171，FAX 0428－24－1615）または学術部長 小机（TEL 0425－96－3908，FAX 0425－96－5350）まで御連絡頂ければ幸いです。



≪学術講演会聴講メモ（1）≫

平成６年６月23日(木)
演題名：「最近の降圧療法と期待される降圧薬」
講　師：埼玉医大第四内科助教授　片 山 茂 裕 先生

高血圧症に対する降圧治療により、脳血管障害による死亡は明らかに減少したが、冠動脈疾患による死亡は余り減少していない。この原因を検討すると、高血圧症例の中にインスリン抵抗性（耐糖能低下）を示すものがあることがわかってきた。

高血圧症症例の中にインスリン感受性低下症例があるということである。高インスリン血症は、①Na^+の体内貯溜を引き起こし心拍出量が増加する結果高血圧を引き起こす、②血管壁の浮腫から末梢血管抵抗が増強し高血圧を引き起こす、③血管平滑筋細胞の増殖作用が生じ血管が肥大、その結果として高血圧を引き起こす、④血管収縮物質が増加、陽イオン交換ポンプが刺激され高血圧を引き起こす。また、高インスリン血症は脂質代謝にも影響を及ぼし、高Ｖ－ＬＤＬトリグリセライド血症・低ＨＤＬコレステロール血症が生じる。

このため動脈硬化が進展し、冠動脈疾患の原因となる。肥満・糖尿病合併例では特に著しい。さらに食塩の過剰摂取が加わると、インスリン抵抗性が増強し糖・脂質代謝に悪影響を及ぼす。喫煙もインスリン抵抗性を増強させる。

治療：一般に血流量を増加させる降圧薬はインスリン感受性を良くする（ＡＣＥ阻害薬、徐放性ニフェジピンなど)。ＡＣＥ阻害薬は、糖代謝に何らかの影響を及ぼすインスリン感受性を改善する薬剤である。

血管壁レニン－アンジオテンシン系は高血圧の発症に関与しているが、特にアンジオテンシンⅡは、血管の収縮力増強作用ばかりでなく血管壁の増殖・肥大に関与し、動脈硬化発生と密接な関係があると指摘されている。

ＡＣＥ阻害薬には血管肥大の改善・予防作用がある。また、心不全・心筋梗塞後の心筋保護作用も言われている。さらに腎保護作用も指摘されている。特に腎保護作用については、近年糖尿病性腎症による人工透析が増加しているが、ＡＣＥ阻害薬投与で透析の開始時期を１年でも延ばせれば、医療費増大の抑制効果にもなるのでないか。

結語：ＡＣＥ阻害薬は、最近の様々な知見から適切な降圧薬である。その理由は以下の通りである。

１．心筋保護作用
２．腎保護作用
３．インスリン感受性の改善（糖代謝の改善）
４．脂質代謝への影響

（文責：小机）

≪学術講演会聴講メモ (2)≫

平成6年7月8日(金)
演題名：「ガイドラインによるアレルギー疾患の診断と治療」
講　師：あそか病院アレルギー内科医長　宮 本 康 文 先生

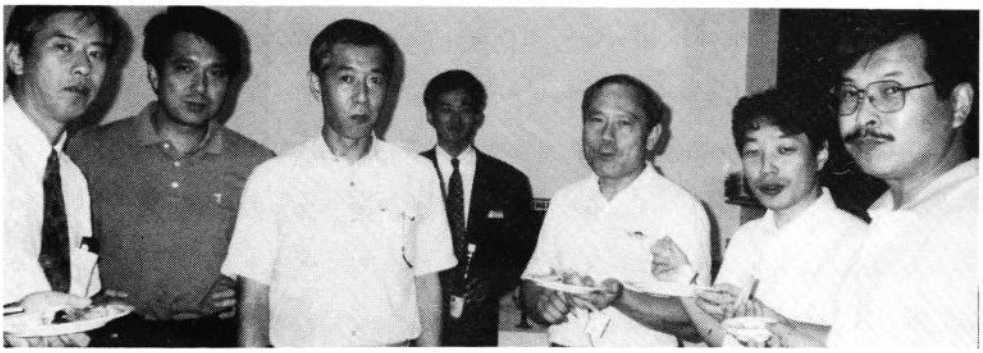
平成5年5月に日本アレルギー学会で編集した「アレルギー疾患の新しいガイドライン」に則り、まず喘息治療の概要を講義された。

喘息発作の重症度の目安は、ピークフロー値測定が極めて有用であり、是非患者に持たせて毎日記録をつけるようにし、値が一定域以下に低下したら入院等の迅速な処置が必要である。治療については、抗アレルギー剤、気管支拡張剤内服、気管支拡張剤吸入、ステロイドの吸入、気管支拡張剤・ステロイドの点滴注射等の組み合わせが有用である。特にステロイド吸入は予防効果も大である。また、吸入が不十分にしかできない小児等に吸入補助器具が色々あり、活用されたい。

アレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎についても、ハウスダスト、特にダニ・カビの関与は大で、これらの対策が大事である。

(文責：樋口)

講演会終了後、医師会館講堂にてワインパーティーを行いました。多くの参加者に残って頂き、夜遅くまで続く賑やかな懇親会となり、三公立病院の先生とも交友を深めることができました。



≪学術講演会聴講メモ（3）≫

平成６年７月14日（木）
演題名：「喘息の治療」
講　師：日本大学医学部第一内科　馬 島　　徹 先生（主催：三共株式会社）

気管支喘息のアトピー型・感染型についての説明、アトピー型に関してはIgEの関与、ＨＤ・各種花粉・ダニ等の抗体検査、28種の抗原が同時にみられる皮内テスト法等について、感染型に関しては気道の炎症－喀痰検査－多数の好酸球・好塩基球の出現、抗生剤の使い方等について、成人喘息の診断と治療、慢性喘息の段階的薬物療法、急性増悪症状の段階的薬物療法、アストグラフ、治療に必要なもの①喘息日記・②スペーサー・③ピークフローメーター、喘息治療の目的、等についてわかりやすい話を聞くことができました。また、ステロイド吸入は積極的に使用し、１日32吸入（1,600μg）まで可能、その話も聞けました。

多くの会員の出席がみられ、質疑応答も活発に行われました。経口・吸入β_2刺激薬の使い方、発作時のステロイド注射薬の使い方、経口ステロイド薬の投与法、抗アレルギー薬の選択法、感染型に対する抗生剤の選択と投与量、喘息死の要因、等についての質問がみられました。

（参考資料）「アレルギー疾患治療ガイドライン」1993年６月26日発行、監修・発行
牧野荘平、編集・製作・販売元　㈱ライフサイエンス・メディカ

（文責：小机）

第９回 多摩臨床シンポジウム

第９回多摩臨床シンポジウムが当番世話人、西多摩医師会々長　松原貞一先生のもとに、７月16日（土）、新宿モノリスビル29階「雲取／御前の間」で開催されました。

テーマは「胸痛」、プライマリーケア・循環器内科・心臓外科・整形外科・呼吸器外科・皮膚科・それぞれの立場からの発表の後、松原先生の座長でパネルディスカッションが行われました。西多摩医師会からは、第一部座長　公立阿伎留病院々長　平沼　俊先生、プライマリーケアから　田中医院（青梅市）田中穂積先生、循環器内科から　青梅市立総合病院　土信田伸夫先生の発表があり、会員の参加も多くみられました。

会終了後懇親会が行われ、三多摩地区の諸先生方と様々な情報交換ができ、病診連携の点からも有意義なシンポジウムでした。

学校医通信

青梅市の学校保健活動

第５回学校医、学校および教育委員会連絡会議

教育委員会３階会議室にて７月14日午後１時30分より略120分、前以って手際よく纏めた資料をタタキ台にして各現場の出席者のより深い貴重な意見の交換が行なわれました。

毎年年１回とはいえその都度私のところに送付されていただくもので、一度顔を出してみたいとおもっていました。幸い予防注射を代わっていただいた山口先生のおかげで望みが叶い、青梅市の場合、吉野住雄をリーダーに大変な若い多くの人材も居り、学校保健の将来は強力なものと確信します。

（みちまた）

出席者名

区分	役職	氏名	備考
学校医	青梅市医師会副会長	大堀洋一	新町小学校医
	西多摩医師会学校医部委員	吉野住雄	霞台・泉中学校医
	第１小学校医	笹本隆夫	
	第２小学校医	小沢町江	
	第４小・新町中学校医	鈴木穆	
	第５小・第６小学校医	藤野芙美子	
	今井小学校医	唐橋善雄	
	第１中学校医	森本晉	
	第２中学校医	石田信彦	
	第３中学校医	鈴木良亮	
	第１小学校医	竹内靖信	
学校	小学校長会長	松本資雄	第２小学校長
	小学校長会副会長	八木光次	第４小学校長
	中学校長会長	並木巧光	第２中学校長
	中学校長会副会長	広田春彦	泉中学校長
	小学校養護教諭代表	宮原圭子	河辺小養護教諭
	〃	田中かの江	友田小養護教諭
	中学校養護教諭代表	寺山裕子	第６中養護教諭
	〃	中野久美子	第７中養護教諭
教育委員会	学校教育部長	井上次夫	
	学務課長	杉山武	
	学務課学務係長	田中信雄	
	学務課学務係担当	中村義広	

当日の資料

(1) 定期健康診断について

(学校医からの提案・意見)

＊　定期健康診断における学校医はベルトコンベアー前の検品係りごとくであること

＊　生徒１人当たり所要時間は１～２分にすぎないこと

＊　各生徒の病歴・生育歴・家族関係・生活環境等バックグランドを知る手がかりが無いこと

＊　生徒に質問する時間は勿論、担任教諭・養護教諭等から助言を受ける時間も無いこと

＊　生徒の家庭および学校における人間関係が把握されていないため所見表記に配慮を要すること

＊　もし、時間を充分に与えられても現在の環境では、病歴というプライバシーの保護が不可能なこと　　(校医　鈴木　穆)

定期健診の結果（殊に異常ある場合）の伝達に際しては児童自身の健康関心が異常に強いこともあるので、プライバシーの保護も含め充分、慎重を期さねば成らず具体的な一定のマニュアルを作って欲しい。

(校医　藤野芙美子)

①　学校医の１人当りの受け持ち児童生徒数が極端に多すぎて、限られた時間内での検査では、身体検査そのものが名ばかりのものになって形骸化するおそれがある。

②　時代の推移と共に病気の状況、罹患の対象疾患が大きく変わってきているような気がするので、私がごとき老医の再教育の必要があるのでなかろうか。

(校医　鈴木良亮)

今年から肥満児については各個に注意を与えることにしました。ただし、男子の場合には他の生徒に聞こえる程度に、女生徒には耳もとで小声で他の生徒にわからないように。

(校医　吉野住雄)

(学校からの提案・意見)

校医の先生の中には大変お忙しく、日程がびっしりとつまっている先生がおられます。学校の検診でも急に予定を変更せざるを得ない場合もありお叱りを受けたり、調整が難しい場合があります。校医の先生をお願いする場合に、あまりご多忙でなく、しかも生徒の健康問題に熱意をお持ちの方をお願いしていただきたいと思います。　(学校長　２中)

予定の変更について医師との間でトラブルが発生した。学校の方でもなるべく変更のないようにしているがやむを得ぬ場合もあるので、都合のつく限りにおいての柔軟な対応をお願いしたい。　(学校長　３中)

健康診断に関する事（要望）

検診結果を伝える時の事です。ケースバイケースだと思いますが、校医の先生の言葉かけ一つで子供たちは、自覚をしたり、気付いたりします。しかし、中にはそのために、いじめられるという“病名”もあるため、現状を理解していただき多少の配慮をお願いしたいと思います。

＝ 今年の例 ＝

◆　口の中の状態が悪い子に対して、校医から『くさい』と言われたことが、いじめにつながりかけた。

◆　肥満児童に対して口頭で言わないため、本人の自覚がなく保護者へ伝える場合にも、スムーズに受け入れられないこともあります。できれば校医からも言われている方が指導しやすいので、ある学校では来年度から、肥満の子どもには『A』というように教えてもらうように考えています。

(養護教諭　小学校部会)

内科について

事前にチェックした健康状態を気がかりな生徒については個々の検診の際にお話ししますと、適切なアドバイスをいただいております。大勢の生徒を限られた時間で診ていただかなければならないので、検診の進め方を工夫するよう心がけてはおりますが、校医の先

生方からも日頃考えておられる点がありましたら、お話しいただければ幸いです。

背柱、皮膚状態、貧血の有無、栄養状態などよく診ていただいているので感謝しています。市で統一された管理指導表（喘息など）があると、要養護生徒の管理がしやすいと思います。

友達関係をうまくつくれない生徒がいて身体の不調を訴えてよく来室し、早退したり休んだりを繰り返しています。微熱が続くため保護者の方との話し合いも持ち、病院での診察も受けていただきました。こうした生徒が増加傾向にあると思います。保健室での対応について参考になるご意見などありましたらお願いします。　（養護教諭　中学校部会）

眼科・耳鼻科について

眼科、耳鼻科ともほとんどアレルギー疾患の者が多く、すでに治療していたり時期がくれば治る者も多い。医療機関へ行く必要性のある生徒を拾えるよう、検診前に医師へ確認できれば、と思います。

体質改善や栄養の取り方、生活の仕方などが大切に思われます。

（養護教諭　中学校部会）

健康診断とのかかわりの中でのことですが、“治療のすすめ”のプリントで医師の証明書は、証明書料をとらないよう徹底していただきたい。（青梅内だけでなく、西多摩の範囲内でも通るようならば、なおありがたい。※羽村市の耳鼻科医では１通につき300円とっているとの事でしたので）

（養護教諭　田中かの江）

治療勧告書について

眼科、視力、耳鼻科、歯科等の治療勧告書の返信は、医師に記入してもらう形式になっているが、受診結果を保護者が記入して学校に提出する形式ではまづいのでしょうか。正確に診断名が分かる利点はあるが、500円くらいの文書料を払っているようです。

（養護教諭　中学校部会）

(2) 今後の学校保健について

（学校医からの提案・意見）

予防接種が定期に接種できない児童には連絡を密にして、接種完了するようにする必要があると思います。　（校医　成田　章）

インフルエンザの集団予防接種が行われなくなってから（印象としてですが）、学級閉鎖が毎年のように多くみられるような気がします。

冬季になりましたら、インフルエンザも含め、いわゆる感冒の流行予防に特に配慮してはいかがでしょうか。休み時間・給食の前・掃除の後などのうがい、手洗いの励行。清掃時のマスク着用など。　（校医　野本正嗣）

（学校からの提案・意見）

予防注射の後、具合が悪くなる生徒が出る場合がありますので、注射終了後もしばらくの間、校医の先生に残っていただけたらよいと思います。　（学校長　２中）

予防接種について（質問）

日本脳炎を実施して、こんな問題点がありました。

保護者の方で基礎免疫が終わっていると思い込んでいたが、実は基礎免疫がなく、最初からやりなおさなくてはならない人が多くいました。学校では母子手帳をチェックしながらやるわけではないので、免疫もないのに無駄に接種している人が以外と多いのではないでしょうか。不安に思いました。

基礎免疫のはっきりしていない子、やっていない子等の対応がとっても大変です。できれば、インフルエンザのように個人接種にできないものでしょうか。

（養護教諭　小学校部会）

子どもの健康の維持・向上の基盤はまず家庭であり、保護者であると思う。さらに広く考えれば子育て全体にかかわってくる問題である。幼・小・中・高を通じて計画的に、しかも根気強く家庭（保護者）への啓発活動を

行っていくことが必要だと思う。乳幼児からお年寄りまでの各年齢段階に応じた健康啓発活動の全体計画を策定し、それに従って各機関が協力して働きかけをしていく必要があるのではないか。　（学校長　2中）

エイズが猛烈な勢いで蔓延している状況からみて、やがてエイズについての指導が中学校では必要になってくると思われる。エイズ指導のあり方について校医の先生のお考えを伺いたい。　（学校長　2中）

性教育、たばこ、飲酒、シンナー等の指導において、校医さんの協力が得られれば有益であると考える。衛生講話等をお願いした場合、快くご協力願えるでしょうか。
（学校長　3中）

小児成人病検診は、一斉に実施するのではなく、希望者またはその傾向のある生徒について、保護者の責任において実施する方がよいと思います。　（学校長　2中）

小児成人病検診に関する事（要望）

小児成人病検診が導入されようとしているが、その際にぜひ次の点に、ご配慮していただきたい。

年一回だけの検診で『あとは、各自病院へ』というような検診ではなく、継続指示が仰げるようなシステムであってほしい。

対象者について、学年を決めて行うとか肥満度30％以上の子どもの希望者にするように、対象者をしぼってほしい。

場所について、健康センターでやるとか係付けの医者でやるとかというように、子供たちに不安を与えないように学校以外で実施できるような場所を考えてほしい。
（養護教諭　小学校部会）

小児成人病検診について

小児成人病検診の計画があると聞いておりますが、条件整備されない中で検診が増えることに危惧を感じます。学校での検診は集団の中で実施されるので、衛生面での不備もありまた個人の採血という点では保護者の理解を得て、個人の状態を十分に観察した上で実施できるよう、保護者同伴で個別にセンター等での実施を希望したいと考えております。ご意見をお聞かせください。（他市ではこの方式をとっている所がある。対象者は、肥満度が高い者や校医が選んだ者など）現時点で学校検診の必要はないと考えます。学校に検診を入れる場合…内科検診時、校医さんにチェックしていただくか、体重測定で肥満と認められた者のみとする。血液検査は肥満児の家庭の許可を得て（希望制）実施するようにお願いしたい。検診会場は、健康センターなどにし、学校を会場にしない方向で。

学校5日制に伴い学校行事等の精選を実施しながら各校で年間計画を作成しています。その中で学校会場になる検診が増えることに考えるものがあると思います。
（養護教諭　中学校部会）

学校保健の向上という点で、環境衛生面での流れが（計画が）、まだ定着していないと思います。薬剤師さんの学校へのアドバイスはとても有効的ですので、照度に関すること、教室の空気に関すること、飲料水に関すること等で計画的にかかわってほしいと思います。
（養護教諭　田中かの江）

(3) その他

（学校医からの意見）

日中の会議の場合、できれば時間を短縮していただきたい。例えば午後1時から2時30分とか、あるいは夜7時以後の会議ならば2～3時間かかっても良いのですが。
（校医　石田信彦）

羽村市学校保健会総会に出席して

7月16日、羽村市役所4階大会議室にて、午後2時より下記の方々の参集をえて、めでたく学校保健会が誕生しました。私も来賓の一人としてご招待にあずかり、恐縮しております。総会次第も無事終了し、東京都学校保健会専務理事で東京都医師会理事を何期もなさってられる学校保健のオーソリティ青木宣昭先生が「子どもたちの健康づくりをめざして」ー学校保健を取り巻く現状と課題ーという講演をなされました。次々と出てくる豊富な話題をおもしろく脱線を程よくブレンドした話法に感嘆いたしました。講演のあと隣のコミュニティで小宴が設けられ、暑さを忘れる歓談のなかでのビールは格別で命のエキスといったところ。美味美味。

通算すれば20年以上も編集委員をやって途中2回やめましたが、またやらせてもらっている。　　みちまた　記

平成6年度 羽村市学校保健会役員名簿

平成6年7月16日～平成8年3月31日

	氏　名	所属部会
会　長	真鍋　勉	学校医部会
副会長	小町　寛	学校長部会
会　計	武田昌實	学校薬剤師部会
理　事	松田三樹雄	学校医部会
	井上雄温	学校歯科医部会
	加藤龍男	学校薬剤師部会
	大澤俊雄	学校長部会
	宇野沢千恵子	養護教諭部会
	野崎博子	栄養士部会
	亀田　力	教育委員会
監　事	金子義泰	学校歯科医部会
	星野恵理子	養護教諭部会

向かって左から　道又、真鍋、青木先生

羽村市学校保健会　会員名簿

（平成６年７月16日現在）

区分	内科医	眼科医	耳鼻咽喉科医	歯科医	薬剤師	学校長	養護教諭	栄養士
羽村東小学校	東　吉男	真鍋　勉	山田　登	金子義泰	加藤龍男	小町　寛	中村美和子	羽村瑞穂地区学校給食組合栄養士代表 野崎博子
羽村西小学校	川口卓治	真鍋　勉	山田　登	沖倉　功	小西吉明	宮澤正夫	山田泰子	
富士見小学校	堤　次雄	酒井義生	山田　登	高田　治	加藤龍男	廣澤フサ子	星野恵理子	
栄小学校	佐藤タミエ	真鍋　勉	山田　登	竹前太朗	武田昌實	大澤眞人	大西裕子	
松林小学校	塩澤三朗	酒井義生	山田　登	井上雄温	細田登久治	翠川文彦	浦崎暁子	
小作台小学校	松田三樹雄	真鍋　勉	込田茂夫	對馬澄夫	小西吉明	今村重仁	川津照美	
武蔵野小学校	滝浦復平	酒井義生	山田　登	野崎雅夫	井上晃宏	松永英生	中島美代子	
羽村第一中学校	山川淳二	真鍋　勉	込田茂夫	本田　徹	武田昌實	大澤俊雄	宇野沢千恵子	
羽村第二中学校	宮地　誠	酒井義生	込田茂夫	本田隆弘	細田登久治	黒田健太郎	木住野みほ子	
羽村第三中学校	村山正昭	酒井義生	込田茂夫	宇野　浩	井上晃宏	池田正美	大濱共美	
教育委員会	教育長　中根英治 教育次長　亀田　力 庶務課長　森　檀 指導室長　島村正勝 学務係長　佐々木敏文 学務係　田中祐子							

福生市学校保健会総会　6月25日

これぞ梅雨だと思わせる陰鬱きわまる天候にも拘わらず満席の出席を得まして、市長初め来賓のスピーチをいただき無事総会を終わることができました。今年度から理事として学校給食栄養職員を加えて下表のメンバーで平成6年度役員構成をすることになりました。

平成6年度 福生市学校保健会役員名簿

平成6年6月25日～平成8年3月31日

	氏　名	所属部会
会　長	道又正達	学校医
副会長	馬場　勇	学校長
会　計	堀田晴二	学校薬剤師
理　事	新藤靖夫	学校長
	塚田敬子	養護教諭
	小熊美貴子	養護教諭
	渡邉純子	学校給食栄養職員
	木野村幸彦	学校医
	関口強一	学校歯科医
	島田　実	学校歯科医
	増井厚和	学校薬剤師
監　事	三井田敏幸	学校歯科医
	茂呂なおみ	養護教諭

総会終了後、特別講演「性教育の考え方、進め方」を性教育の分野では第一人者の田野村祐麒先生にお願い致しました。他市町村にも声を掛けたところ数名の養護の先生を見掛けました。性教育に携わる方には誠に有益な講演と自負しております。尚、ホテル福生国際会館での懇親会にも先生がみえられて、女性会員に囲まれ楽しげに時を過ごされたご様子でした。西多摩の学校保健の基礎を作られた西村邦康先生の乾杯、その後の堀田晴二先生の芸能センス溢れる司会進行…… etc。

宮川先生の「道又先生は学校保健に命を掛けてます」のスピーチで宴席のオオウケには一瞬命のメマイを感じましたが、ずうずうしくお褒めと励ましのお言葉と受けとめお目出たく解釈することにしました。

追伸

田野村先生の講演は多摩ケーブルでビデオにして撮り、そのダビングを教育委員会が保管して居り最早二三の学校で使用して居ります。

また講演の抄録的な冊子もあります。ご利用の節は教育委員会学務課に問い合わせて下さい。

みちまた　記

田野村先生を囲んで談笑する女性会員

福生市学校保健会　会員名簿

（平成６年６月25日現在）

学校名	校長	養護教諭	学校栄養職員	学校医（内科）	学校医（耳鼻科）	学校医（眼科）	学校歯科医	学校薬剤師
福生第一小学校	水越　孝	松野智子	金子明代 渡邉純子 内田伸江	山口太平	内山　大 （全校）	馬詰良比古	松永良治	岸　知
福生第二小学校	栗原光春	林　美智子		中村　武		大久保敏男	本間菖平	清水　博
福生第三小学校	東　健次	塚田敬子		渡邊良友			蛯名勝彦	熊谷文子
福生第四小学校	田尻　誠	小熊美貴子		星野　稔		馬詰良比古	片岡憲英	堀田晴二
福生第五小学校	新藤靖夫	長谷川眞喜子		林　實			関口強一	増井厚和
福生第六小学校	島袋全一	中村弘美		道又正達		大久保敏男	吉野英文	吉野美佐子
福生第七小学校	茂山吉秀	笠巻由美子		木野村幸彦		馬詰良比古	佐久間悌樹	町田伸子
福生第一中学校	野澤昭典	三浦千恵子		西村邦康		大久保敏男	三井田敏幸	梅田靖子
福生第二中学校	馬場　勇	茂呂なおみ		山田正哉			島田　実	長岡初代
福生第三中学校	粕谷榮夫	山根千代子		森　和胤		馬詰良比古	田邊　稔	黒木静子

◎教育委員会事務局

教育長　来住野和也
学校教育部長　岩崎好亮
指導主事　石橋　博
〃　勝呂正彦

庶務課長　木村シズ子
学務係長　小山和彦
学務係主事　高木　裕
〃　中野菜穂子
〃　木村俊博

学校給食課長　雨宮修介
給食第一係長　会沢　忠
給食第二係長　細谷春好

文芸随筆諸事百般

みちのくひとり旅

── 芭蕉とともに ── (III)

最上川を酒田へ

近藤　肇

山形市内

私は立石寺(りっしゃくじ)を見物し終わって、宿を山形の駅近くのビジネスホテルにとった。

山形城跡の霞城(かじょう)公園内の山形市郷土館は、明治11年建築の済生館病院を移築復元した建物。ルネッサンス様式の大正5年の建築の旧県庁舎も保存されている。「いも煮会フェスティバル」というのがある。名物行事としてテレビでも放映された。2万人分の食物を一度に煮る直径5，6メートルの大鉄鍋が、川岸の道路脇に据えられてある。当日は、川原へヘリでこれを運んで、煮炊きする。

将棋の天童

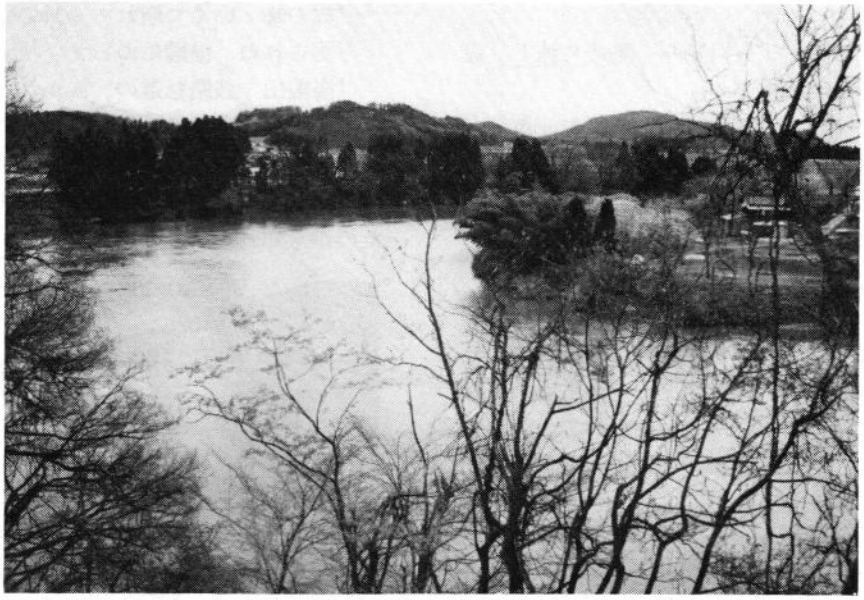
曽良日記には、「28日、立石寺より馬借りて天童におもむく」とある。

天童は将棋の駒で有名。あちこちに駒を看板にしているのが目立つ。花が多くきれいな舞鶴公園の広場で、4月の最終の週末土・日に人間将棋が行われる。天童は、さくらんぼの産地でもある。

山形郷土館。明治の済生館病院だった建物。医学資料館となっている。

いも煮フェスティバルが9月第一日曜日に開催される。この大釜を、ヘリで吊り上げ川原に降ろす。

いたるところ、将棋のシンボルマークが目立つ。これは天童駅前のポスト。



最上川の一番の景観地。
村山市大淀、国道より眺む。

大石田と最上川

天童の少し先に楯岡がある。この地に、最上川の良い展望の場所があった。画家の別荘があり、画描きや写真を撮る人がよく来るところといい、楯岡の駅から８キロほどの同じ村山市内の大淀という地、確かに最上川の眺めは素晴らしい。

村山市の隣町が大石田である。

芭蕉は、「最上川を舟で下ろうと、大石田というところで天気の良くなるのを待つ。」と書いている。舟役を務め俳諧を好む高野一栄宅である。芭蕉は、大石田に、３日滞在した。

なお、芭蕉は、「天気の良くなるのを待つ」と書いているが、これは文章の流れの上でのアヤで、天気は悪くはなかった。

曽良日記によると、

> 28日午後２時半頃、大石田の高野一栄宅につく。昨日今日と雨降らず。29日から晦日（30日）にかけて、歌仙を巻いた。夜になりて小雨あり。

とあり、雨のため天気の良くなるのを待ったのではない。

最上川の土手にある高野一栄宅跡。
タクシーの運転手は知らなかった。

芭蕉の最上川の句として、“五月雨を　集めて早し　最上川”がある。この句は有名であるが、この句は、もとは、“五月雨を　集めて涼し”だったのである。

芭蕉は、大石田での29日夜から開いた最上川歌仙において、

“五月雨を　集めて涼し　最上川”と発句した。

つづいて一栄が答えて、

“岸にほたるを　つなぐ舟杭”　とワキ句

を詠んだ。

このように、“五月雨を　集めて涼し　最上川”だったのである。

『おくのほそ道』は旅の３年後に、芭蕉が推敲に推敲を重ねて、友人の素龍に依頼して清書させ完成したもので、前に書いたように、文学的に工夫を凝らして、多少の事実を曲げたり、句の言葉を変えたりして、世に残すに足りる作品とした。

６月朔日（１日）　芭蕉は、新庄の俳人を紹介されたので、陸路新庄に向かった。渋谷風流宅に宿し、ここでも歌仙を巻く。

２日　庄内一の富豪九郎兵衛へ招かれ、歌仙の会を催した。

３日　天気はよし。新庄を立ち、最上川岸の元合海へ出た。

芭蕉は、元合海から清川まで乗船した。

現在、観光用の最上川下りは、元合海より５キロほど先の古口から、清川手前の白糸の滝までの12キロ１時間のコースである。

芭蕉は、清川で上陸し、羽黒山へと向かった。

夕暮れの最上川下りの古口乗船場。

出羽三山

芭蕉は、３日に、羽黒に着いた。南谷の別院に泊まって、羽黒山・月山・湯殿山の三山を巡礼、10日まで滞在、種々と歓待され、句会を重ねた。

“ありがたや　雪をかをらす　南谷”

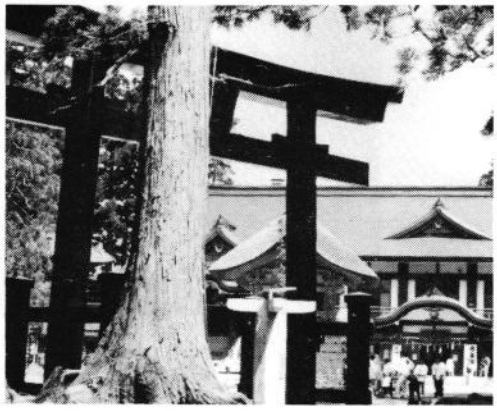
“涼しさや　ほの三日月の　羽黒山”

“雲の峰　いくつ崩れて　月の山”

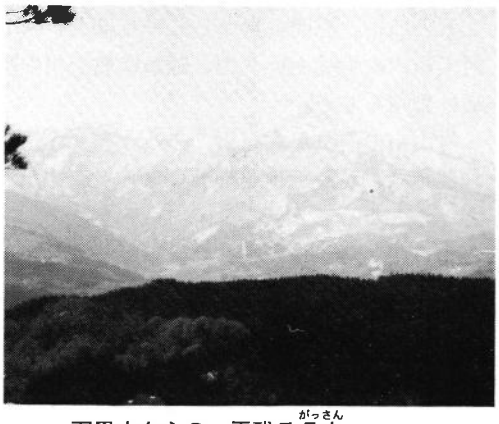
“語られぬ　湯殿にぬらす　袂かな”

“湯殿山　銭踏む道の　涙かな”

羽黒山は、もとは「羽州里山」で、誰かが書き写す時に『里』の下に点を付けたため『黒』になり、州も省かれ「羽黒山」となったのかも知れない、と芭蕉は言っている。



羽黒神社。芭蕉の像と碑あり。
羽黒・月山・湯殿の三つの山で出羽三山という。



羽黒山からの、雪残る月山。
月山スキー場は夏スキーが出来る。

酒　田

13日　芭蕉は、鶴岡から、赤川を舟に乗って酒田に向かった。

酒田では淵庵不玉という医師の宅を宿とした。

酒田での芭蕉の句は、『おくのほそ道』に２句載っている。

“あつみ山や　吹浦(ふくうら)かけて
夕涼み”

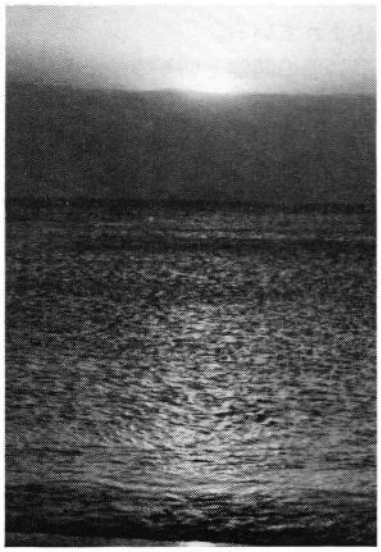
――その名も暑き、あつみ山だが緑あり、頭をめぐらせば、暑さを吹き払う涼しげな名前の吹浦の眺望が見渡せる。何と、しゃれた涼みだろう。――

“暑き日を　海にいれたり
最上川”

――赤い夕日が、海に沈もうとしている。暑い一日を、最上川の流れが、海に入れてしまった。涼しい夕風である。ああ、最上川の河口、日本海の夕日よ。――

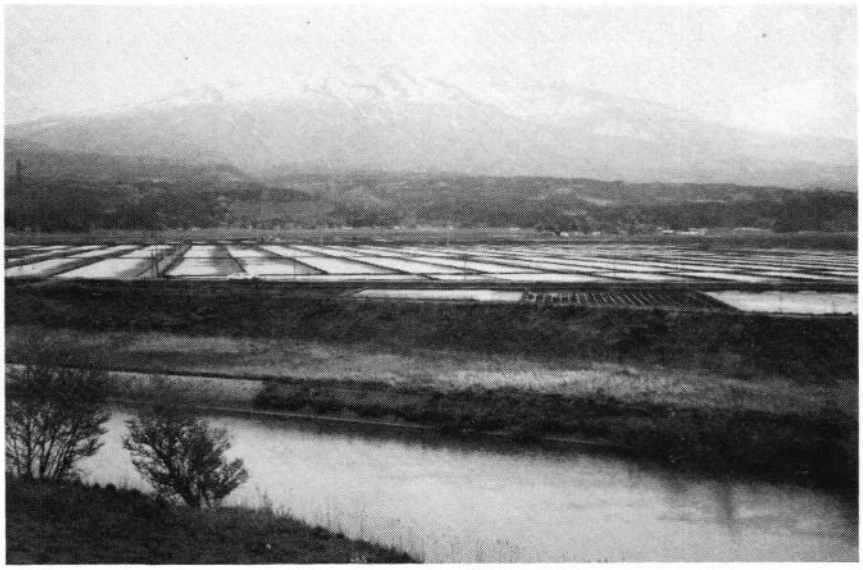
この句、実際に、ここで芭蕉が作ったのは、“涼しさや　海に入たる　最上川”であって“暑き日を……”でない。後で、“涼しさや……”を“暑き日を……”としたのである。

私は、時間があって、酒田市内を、駆け足で見物した。北前船で米を運んだ山居倉庫(さんきょ)は、今では、おしんのＴＶロケのあった地として有名になっている。日本海を見下ろす日和山(ひよりやま)



日本海の夕日。

酒田、日和山公園の芭蕉の像と句碑。
“暑き日を　海にいれたり　最上川”



遊佐(ゆざ)を流れる月光川(がっこうがわ)。鮭の遡上で有名。
曇り空に、鳥海山が良く見えた(次頁)。

公園には、芭蕉の像と“暑き日を　海にいれたり　最上川”の句碑がある。

酒田には海岸線に長く続く砂丘がある。きれいである。曇り空の１日だったが、夕方運よく晴れてきた。私は、急ぎ砂丘に行き、日本海の夕日を見ることができた。酒田の日本海に沈む夕日は日本一だという。

象潟への旅

私は、吹浦に行こうとしたが、吹浦には特急は止まらない。ひとつ手前の遊佐で降りた。タクシーで吹浦に向う途中に月光川という川が流れている。月光川は鮭が回遊する川として知られている。曇空ながら鳥海山が良く見えた(前頁)。

月光川を渡り国道を行き、海に迫った断崖を出ると、十六羅漢という名所がある。

元治元年（1864）に、海で命を失った人々のための供養として、海禅寺第21代の寛海和尚が海辺の岩々に数多くの仏像を掘った岩場で、一帯の海辺は岩礁多く、左手は砂丘が酒田まで続いているから眺めは良い。国道の車の凄い騒音のガードレールに沿って芭蕉の石碑がある。

“あつみ山　吹浦かけて　夕涼み”

の句が刻まれている。

曽良日記には、「16日吹浦を立ち、番所を過ぎると、雨強く濡れること甚だしい。女鹿より難所、馬通らず、ここは、大師崎とも三崎ともいう」とある。

芭蕉が難所で一番苦労した一帯である。国道を行くと、三崎峠の下に三崎公園というのがあり、レストハウスがあり、海の方へ降りる遊歩道が整備されてあり、リクリエーション地である。ここは山形県遊佐町と秋田県の境で、公園は秋田県である。

公園に、曽良の碑があり、曽良随行日記が刻み込まれている。

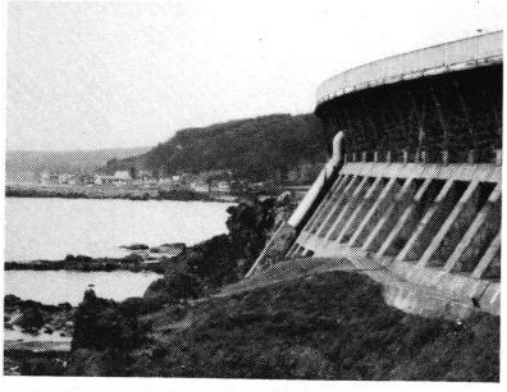
有耶無耶の関跡というのが、遊佐駅で貰ったＪＲ東日本の附近の案内書パンフレットにも、市販の道路地図にも、各社のガイドブックにも、みな三崎公園のところにあるように書かれているが、いくら探しても見つからない。

有耶無耶の関がどこにあるのか、ウヤムヤだ。

曽良日記をよく読んで見る。

「１里半で小砂川の番所あり……、塩越まで３里。その途中に、関という村あり。有耶無耶の関なりという。」とある。それじゃあ、きっと、関という村があるんだ、そこを目当てに行こう。

遊佐の国道沿いの十六羅漢にある芭蕉の句碑。



今は、海にはり出た国道の車の騒音で耳をつんざくよう。

あった、あった。国道の左側に、棒杭に書かれた『至ウヤムヤの関0.3km』の文字が目に止まった。左に折れると何軒かの家があるが、標識はない。家から出てきたおばあちゃんに聞いても知らんという。この家々の地が、ウヤムヤの関跡なんだなと、ウヤムヤのうちに分かった。

嵯峨天皇の御代に毒蛇がいて農民を苦しめた。鳥海山の神は三本足の烏(からす)を放ち、毒蛇がいると「有耶(うや)」と鳴かせ、山に帰っていなくなると「無耶(むや)」と鳴かせて、農民に知らせた。（遊佐新風土記より）

芭蕉の最後の目的地『象潟(きさかた)』

芭蕉は感激して次のように書いている。

これまで、山水陸路の美景のある限りをことごとく見てきて、今や象潟に対して詩心が湧き出て、心苦しめ悩ますが如くである。酒田から東北に向かい、山を越え、磯を伝い、砂浜を踏んで、その間十里（40キロ）、日もようやく傾きかけるころ、着いてみると、雨は朦朧としてうちけぶって、鳥海の山も隠れてしまって見えない。翌朝、天気はからりと晴れ上がって、朝日がはなやかさにさし出るころ、象潟に舟を浮かべた。まず、能因島に舟を寄せて、三年幽居の跡を訪れ、また、西行法師が歌を詠んだ記念の地に想う。汐越の入江は縦横各一里（4キロ）ばかり、その風景は、松島に似通っているし、違ったところもある。いわば、松島は、笑っているような明るさがあり、象潟は、憂いに沈んでいるような感じだ。さらにいえば、寂しさの上に悲しみを加えて、その地のたたずまいは、傷心の美女の面影に似ている。

干満珠寺(かんまんじゅじ)という寺がある。この寺の座敷に座って、すだれを巻き上げて見ると、象潟の風景はすべて一望のうちに見られる。南には、鳥海山が天を支えるが如く高く聳え立ち、その影が横たわって水上に映し出されている。西は、うやむやの関が道をさえぎって、その先は見えず、東には秋田に通う道がはるかかなたへ続いている。

芭蕉の文の中にある干満珠寺、現在は蚶満寺(かんまんじ)という。芭蕉の像と句碑がある。折から子供の日の休日、露店が出て、親子連れやアベックで賑わっていた。寺の中の庭園は素晴らしく、入園料を払って拝観できる。

当時、松島とともに日本の二大景観とされた象潟の美は、平安時代より、多くの歌人、特に代表的歌人の能因法師、西行法師らが訪れていて有名な地であった。ところが、今から190年前の文化元年（1804）の地震で陸地となってしまった。

かつての象潟は、南北4キロ東西2キロの間に99の小島88の潟があって、昼夜、潮のさしひきで、干満ごとに潟の姿異なり、実に見事であった。だが、象潟は今はない。

象潟での芭蕉の句は2句が『おくのほそ道』に記されている。

“象潟や　雨に西施(せいし)が　ねぶの花”

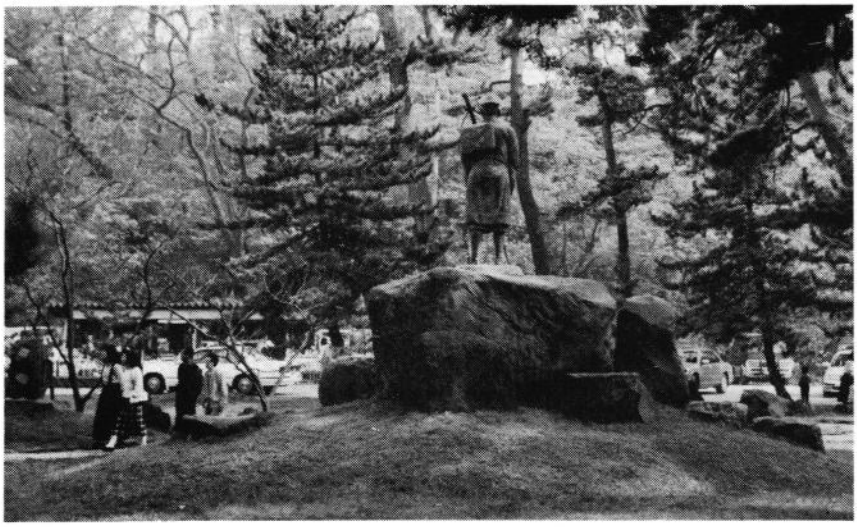
――岸辺に茂るねむの花が、雨にそぼぬれている中に、美人西施を思い浮かべた。――

“汐越や　鶴脛(すね)ぬれて　海すずし”

――汐越は塩越の地名をいうのではなく、海の波がこちらに越してくる浅瀬のこと。この句は、汐越の浅瀬に鶴が立っていて、その長い足がぬれているのを見ると、いかにも涼しい感がするという意味。――

このように、芭蕉は、15日、酒田を立ち吹浦に宿し、16日ウヤムヤの関跡を通り、象潟入口の汐越に着いて、鑑賞し、18日に酒田に戻った。これで、芭蕉は、最後の目的地象潟を訪問し終り、大いに満足したであろう。そのためか、酒田にゆっくり滞在し、25日に越後路へと向かって、帰路についた。

私も、この旅は恵まれて、雨もよいの空だったが、日本海の夕日を見ることもできて、酒田を立った。



連休で、家族やアベックで賑わう蚶満寺。
像は芭蕉像。

多摩医学会演題募集

開催日時：平成６年１０月２９日
午後２時

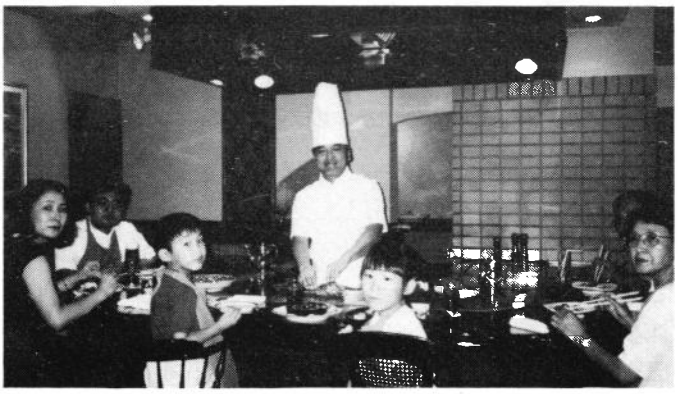
演題締め切り：平成６年９月１２日

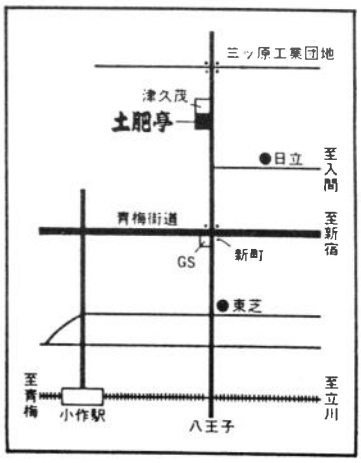
詳細は医師会事務局まで
お問い合わせください。

グルメ探訪
ステーキ・鉄板料理　土肥亭

食通多き西医の諸先生にはすでにご存知の有名店につき、今更と言われるのも覚悟のご紹介。

味とアメニティーの両者を兼ね備えた店の少ない西多摩で、開業以来８年謙虚な存在感を益々確実にし、我が家族の支持も固く、総合満足度の高い、思い入れ甲斐のある貴重な一店。店主の土肥氏は団塊の世代、自制の効いた新中年でホッとする魅力あり。八王子『うかい亭』から、借金を元手に腕一本で独立とのこと。業種こそ異なるが世代も起業規模も似かよった我が診療所に重ね合わせ、きめ細かいサービスに接して学ぶところは多い。熟成の効いた山形牛と山海の幸が堪能出来る「土肥亭コース」がお勧め。医師会報を見て来たと言って下さればなにか良いことがあるようお願いしてあります。予約 TEL 0428（31）7667　（玉木）





地区だより

福生地区

福生市三師会総会開催

福生市三師会総会が７月22日午後７時より、ホテル福生国際会館にて開催された。物故会員黙禱のあと事業・会計報告・会則改正・役員改選などの議事を終え懇親会を行った。懇親会には川瀬福生保健所長、福生市より石川市長、矢崎福祉部長、来住野教育長、長谷川健康管理課長各位、三師会より松原西多摩医師会長、高取西多摩歯科医師会副会長らを招き活発な意見交換を行った。

西多摩三師会結成に積極的意見が聞かれた。

（広報部）

お知らせ

事務局より　お　知　ら　せ

9月（8月診療分）の

保険請求書類提出日

9月8日（木）

―― 正午迄です。 ――

法　律　相　談

西多摩医師会顧問弁護士　鈴木禧八先生による法律相談を毎月第2水曜日午後2時より実施しておりますのでお気軽にご相談下さい。

◎ **相談日**　**8月は10日（水）**
　　9月は14日（水）の予定です。
◎ 場　所　西多摩医師会館和室
◎ 内　容　医療、土地、金銭貸借、親族、相続問題等民事、刑事に関するどのようなものでも結構です。
◎ 相談料　無　料（但し相談を超える場合は別途）
◎ 申込方法　事前に医師会事務局迄お申込み願います。
（注）先生の都合で相談日を変更することもあります。

訃　報

唐橋きく様　86才

青梅市今井1－2547
青梅厚生病院長
唐橋善雄　先生（ご母堂）
（西多摩医師会理事）

去る6月25日逝去されました。
謹んでお悔やみ申し上げます。

表紙のことば

福生七夕祭

「七夕の夜は近づきぬしかれども
君と吾が会ういつの日にかも」

中国のロマンチックな神話が伝承され、日本風に脚色されている。

福生では奇抜な飾りつけが面白く、毎年多勢の人々でにぎやかである。

鹿野純一

あとがき

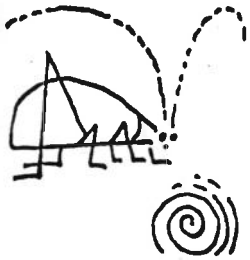
「カッタカタノタ」という言葉を聞いたのは、京橋から中野区に移り住んだ幼い頃だった。父は歌が好きで、機嫌のよい時は、「山の上からチョイと出たお月、誰を待つやら待たぬやら……。カッタカタノタ、それカッタカタノタ」などと鼻歌を歌いながら、庭いじりをしていた。僕が昭和初期までの古い歌を断片的に知っているのは、この為である。

歌の前段はとに角、「カッタカタノタ」は父のデマカセであると、随分長いこと思い込んでいた。そして、デマカセにしても、もう少し増しな文句を考えからよさそうなものだ、と子供心に批判していた。

後年、偶然、「カッタカタノタ」は信州須坂の民謡のはやし言葉であって、冬の夜、凍った道を小走りに歩く下駄の音だということを知った。そう言われてみれば詩情、歴然。そうであったか、と父を見直したのであった。

おとなになると、「カッタカタノタ」の他にも、父を見直すことがいくつも出てくる。間もなく田舎のお盆が来る。お墓の草とりに行かねばならぬ。

石井好明



原稿募集

表紙の絵画・写真、御意見、文芸、随筆、諸事百般……投稿自由

毎月15日 〆切

事務局又は広報委員まで

社団法人 西多摩医師会 平成6年8月1日発行

会長 松原貞一 〒198 東京都青梅市西分3－103 TEL 0428(23)2171・FAX 0428(24)1615

会報編集委員会 玉木一弘
石井好明 奥野 仁 片平潤一 小机敏昭
高水松夫 樋口昭夫 道又正達 山川淳二

印刷所 マスダ印刷 TEL 0428(22)3047・FAX 0428(22)9993

RETAIL BANK
あさひ銀行

あなたの街のあさひです。

あさひ銀行

東青梅支店	TEL.0428－22－2121(代)	〒198	青梅市東青梅2－17－4
奥多摩特別出張所	TEL.0428－83－2515(代)	〒198-02	西多摩郡奥多摩町氷川1421
青梅支店	TEL.0428－22－1101(代)	〒198	青梅市青梅295
河辺支店	TEL.0428－24－2401(代)	〒198	青梅市河辺町10－2－9
福生支店	TEL.0425－51－1021(代)	〒197	福生市福生1048
村山支店	TEL.0425－61－1211(代)	〒208	武蔵村山市中藤4234
秋川支店	TEL.0425－58－2611(代)	〒197	秋川市下代継111－5
羽村支店	TEL.0425－79－0881(代)	〒205	羽村市五ノ神4－13－10
五日市支店	TEL.0425－96－1311(代)	〒190-01	西多摩郡五日市町五日市840－1

"心くばり"と"愛情"と……

医薬品総合商社

大森薬品株式会社

代表取締役　吉津武志

本社：東京都千代田区神田佐久間河岸59号地　TEL03(862)6111(大代表)

●東京第一支社●東京第二支社●横浜支社●甲府支店●群馬支店

中央営業所	☎03-3864-6121	福生営業所	☎0425-53-1411	戸塚営業所	☎045-624-3451
両国営業所	☎03-3626-7611	大宮営業所	☎0486-24-3131	横須賀営業所	☎0468-33-1611
城西第一営業所	☎03-3958-1211	所沢営業所	☎0429-28-3561	大船営業所	☎0467-43-1191
城西第二営業所	☎03-3958-1212	川口営業所	☎0486-24-3131	厚木営業所	☎0462-47-6752
青戸営業所	☎03-3604-1551	志木営業所	☎0492-54-6911	相模原営業所	☎0462-51-2101
足立営業所	☎03-3604-1551	越谷営業所	☎0489-76-2115	東毛営業所	☎0276-88-4516
城南営業所	☎03-3720-2111	千葉営業所	☎043-279-5661	前橋第一営業所	☎0272-51-4516
病院第一営業所	☎03-5820-1622	船橋営業所	☎0474-34-2931	前橋第二営業所	☎0272-51-4516
病院第二営業所	☎03-5820-1623	横浜営業所	☎045-491-8761	伊勢崎営業所	☎0270-62-7755
保谷第一営業所	☎0424-22-6811	川崎営業所	☎044-511-2551	特品営業所	☎03-3626-7610
保谷第二営業所	☎0424-22-6811	高津営業所	☎044-866-3911	健康産業部	☎0486-22-2090
日野営業所	☎0425-84-3600	緑営業所	☎045-941-5121		

優れたノウハウで西多摩医師会会員のニーズにお応えいたします。

経理事務に関することなら何でもお気軽にご相談下さい。

- 一人医師医療法人の設立・先生方の関連事業の会社設立
- 新規開業時の銀行提出資料の作成
- 毎月の記帳・給与計算・決算業務の代行・指導
  （この業務はＮＨＫ教育テレビで紹介された21世紀の経理システム「キャッシュ・レーダー」で行います。）
- 賃貸・譲渡や経営再建に関する相談
- 利益計画の作成、事業承継や財産管理等の資産保全に関する相談

なお、税務相談、申告書の作成等の税務については、日経メディカル「メディクイズ」を連載執筆中の「小山公認会計士事務所」がサポートいたします。

有限会社　経理処理サービス

本社　東京都田無市本町５－１１－１４
ＴＥＬ．０４２４(６４)８３９０
ＦＡＸ．０４２４(６４)２２１８